

# 松山義則元同志社 総長・理事長 追悼礼拝

法人事務室

4月14日（月）の松山義則元同志社総長・理事長のご逝去を受け、栄光館ファウラーチャペルに於いて、5月11日（日）14時から、約700人の参列者が集う中、追悼礼拝が執り行われました。

石川立大学キリスト教文化センター所長の司式により最初に一同で讃美歌を斉唱し、引き続き女子大学の中村信博宗教部長による聖書朗読ならびに祈禱が行われました。続く水谷誠理事長による「復活の主・命の主」と題した説教の中では、この大きな悲しみと喪失をキリスト教においては神の御許に召されたと理解し、「神が共にいる」という恵みは、天に召された人だけでなく、地上に生きる我々も同じであり、神の見えざる手に我々も導かれていると説かれ、祈りを捧げられました。

追悼のことばにおいては、大谷實総長から、大学における京田辺キャンパス設立や私立大学連盟における理事としてのご活躍など、

学内外でのご活躍を決して忘れてはならず、同志社にとって大きな損失であり、大変無念であると語られました。濱直樹同志社スポーツユニオン会長・学校法人同志社理事からは、同志社大学アーチエリー部や同志社校友会へのご尽力にも言及し、松山先生の深い愛情でこれからも私たちに大きな力と勇気を与えていただきたいと語られました。鈴木直人同志社大学心理学部教授からは、松山先生を通じて同志社を学び、同志社教育を知った。また、心理学界においても多大な功績を残されたことに感謝を捧げると語られました。

その後、水谷理事長による祝詞、ご遺族代表の挨拶と続き、最後に村田晃嗣同志社大学長・学校法人同志社理事から、松山先生の同志社への永年の貢献に深く感謝すると同時に、同志社創立150年に向け、同志社が、志を同じくする者たちの学園、文字通り同志社として前進していく所存であること

を松山先生の御霊前に誓いたいとの挨拶があつて、参列者による献花により礼拝は締めくくられました。



松山義則元同志社総長・理事長 追悼礼拝 於：栄光館ファウラーチャペル

## 第1回同志社キリスト教 教育研修会を開催

法人事務室

5月22日(木)、大学クラーク記念館クラーク・チャペルにおいて、原誠大学神学部教授を講師に迎え、5年目の教職員を対象に同志社のキリスト教主義、建学の精神、歴史等を再認識する機会を提供することを目的として、第1回同志社キリスト教教育研修会が開催されました。原教授は、「同志社のキリスト教」と題する講演で、冒頭、日本の最初のキリスト教の種として横浜・札幌・熊本の各パンドの紹介をされました。続いて、新島襄が同志社を設立した経緯、アメリカンボードによる京都ステーションの活動内容を説明されると共に、「同志社大学設立の旨意」を改めて読み、新島襄の志を再確認しました。そして、キリスト教苦難の時代である戦前、戦中の説明をされ、戦後の教育制度、高等教育大衆化の話に展開され、結びに、同志社が求めるのは、「キリスト教の共同体としての同志社ではなく、キリスト教への深い理解

と関心と知識を分かち合う教育の共同体である」と説かれ、講演は終了しました。

講演に続き、女子大学の中村信博宗教部長がコーディネータを務め、質疑応答が行われました。キリスト教が重要だとは認識しながらも日頃は学ぶ機会が少なく、このような機会は貴重であるという意見が多く寄せられていました。様々な質問や意見があり、参加者の意識の高さが伺われる質疑応答となりました。

講演会終了後には、講師やコーディネータ、キリスト教教育委員を囲んだ交流の場が持たれ、各学校における取組みや日頃感じていることなど積極的な意見交換が行われました。



5年目の教職員を対象に開催されたキリスト教教育研修会 於：クラーク記念館クラーク・チャペル

## 2014年度春学期 外国語honors認定書授与式

大学広報課

5月29日、クラーク記念館チャペルにおいて、2014年度春学期外国語honors認定書授与式が開催され、受賞者に認定書と記念品が手渡された。

外国語honors制度(外国語科目成績優秀者表彰制度)とは、高度な外国語運用能力と国際的な視野と見識を備えた人材の育成を目標に、外国語について優秀な成績を修めた学生を表彰する制度で、2006年度春学期から導入している。

今回認定を受けたのは神学部1人、文学部2人、社会学部1人、法学部4人、経済学部2人、商学部2人、心理学部1人、グローバル・コミュニケーション学部6人の計19人であった。

授与式では真山達志教務部長の司会のもと、村田晃嗣学長より祝辞が述べられた。新島はボストンへ到着した当時英語が堪能ではなかったこと、それでも必死で思いを綴った英文がハーディーの胸を

打ち、その後の人生に繋がったことが紹介され、受賞者に対して今後も研鑽を積むようエールが送られた。



## 看護学部関連棟(仮称) 起工式

### 女子大学

4月10日、晴れ渡った空のもと、女子大学京田辺キャンパスで、2015年4月開設予定の看護学部に関連する建物の起工式を執り行い、工事の無事を祈りました。中村信博宗教部長による祈祷、大谷實総長による式辞に続いて、起工式参列者が記名した小石と聖書、讃美歌、大学案内などの本学刊行物を箱に納めました。この箱は後日に埋設されました。加賀裕郎女子大学長からは、「創設者新島襄がめざした『新しい世の中』にふさわしい医療人の育成」という信念を受け継ぎ、薬学部、生活科学部、食物栄養科学科といった既存の学部学科とともに連携をはかっている」とあいさつがあり、最後に水谷誠理事長の祝福が行われ、起工式は無事終了しました。

看護学部関連棟は、薬学部棟である憩水館の隣に、2015年2月に竣工予定で、看護学部開設後は両学部の教育、研究における連携も視野に入れて設計、建設されています。また、京田辺キャンパスの既存の建物との調和を考慮し、外観はかつての京都看病婦学校や同志社病院がモチーフを一部



看護学部関連棟(仮称)予定図

取り入れたデザインとなっており、完成すると鉄筋コンクリート5階建て、延べ床面積5380平方メートルとなり1階には薬学部の関連教室、2階には看護学部事務室、共同研究室といった施設のほかに、学生同士のコミュニケーションスペースとしてオープンラウンジ、3階、4階には実習室関連、共同研究室、ラーニングラウンジが入る予定です。先進的な看護教育を受けることができるだけでなく、学生同士が相互に高めあう場となるような施設を建設します。



## 中学1年生 オリエンテーション合宿

なかがきたよしほ  
香里中学校・高等学校教諭 中北吉保

本校では毎年4月中旬〜下旬に2泊3日の行程で新入生オリエンテーション合宿を行っております。その主な目的は「友だちをたくさん作る」ことにあります。

これまで訪問先の変更は幾度かあったものの、合宿の内容はほぼ変わっておりません。

今年度は4月17日(木)〜19日(土)に岡山県美作市にある「ゆのこう美春園」で行いました。

初日は校祖墓参で始まり、新島先生の墓前で入学の報告をします。宿泊先に到着後は、開所式と各業務分掌や学校生活全般に関わる様々な説明がなされます。

2日目は、午前と午後で別々のプログラムを用意し、体験学習とスポーツ大会を行います。夕食後には、各クラス担任による工夫を凝らしたクラス活動があります。

最終日の午前は、訪問先にもよりますが、最寄りの観光地等を訪れています。

体験学習やスポーツを通じた活

動、移動のバス車内や宿泊先の部屋での談笑、寝食とともにすること、授業外の時間で教員と接すること：特別なことではないように思われますが、こうした機会は友だち作りの初期段階において重要な役割を果たしていますし、教員(特に担任)と生徒との心理的距離も縮まり、信頼関係も生まれま

す。生徒たちはどの瞬間もとても楽しく過ごすことができ、時間を追うごとに笑顔と笑い声が増えていきます。

今後も「友だちをたくさん作る」ことができる様々なアイデアを展開していきたいと思っております。



朝礼拝時



スポーツ大会後の集合写真

国際学院国際部 PYPコーディネーター Susan Loafmann

Doshisha International School, Kyoto (DISK) is one of the newest members of the Doshisha family of schools; DISK was established in 2011 as a part of Doshisha International Academy, in the city of Kuzigawa. DISK is a grade 1-12 school that delivers an international curriculum designed to meet the needs of the internationally-minded community residing in the Kansai area.

DISK has been on a fast track to obtain international accreditation, most notably through the prestigious International Bachelorette Organization (IBO); DISK obtained IBO Diploma Program (DP) authorization in late 2011 and followed with the IBO Primary Years Program (PYP) authorization in early 2014. DISK has plans to become an IBO Middle Years Program (MYP) candidate school in the near future. In addition to IB programs authorization DISK is currently undergoing a "self study" process as a preliminary step necessary to obtain accreditation from the Western Association of Colleges and Schools (WASC). Meeting each of the rigorous WASC standards and following through on the accreditation process will further validate the quality of teaching and programs offered at the school.

As an IBO World School, DISK supports students in becoming inquiring, open-minded, caring, reflective thinkers and communicators who take risks

and are principled, knowledgeable and balanced. The IBO programs provide the framework in which curriculum is delivered, DISK teachers work within the framework to extend learning experiences that cultivate the skills and knowledge necessary to be successful in a modern global community. In keeping with developing an internationally minded community of learners DISK teachers teach students to understand others with an empathetic and compassionate disposition; they teach students to be passionate about shaping the world to be a better, more loving place.

We hope that the information provided here gives you a better picture about the DISK experience. Please visit our website at <http://www.diskkyoto.com/index.html> for more information.



Grade 1nd 2 inquiring into living things they saw on a "Sharing the Planet" exploration walk.



DISK Student Organizing Council are busy planning for the DISK Holiday party.



Grade 3 and 4 presenting their "Where We are in Place and Time" displays with other students, parents and teachers.

なかむら たろう  
女子中学校・高等学校教諭 中村太郎

女子中高では、毎年3学期に、中学生徒会企画(国際交流)を行っています。2003年度から始まったこの企画は、本校体育科の森岡教諭からの紹介によるさまざまな講師が、外国の文化や楽器などを、中学生たちに楽しんでもらいながら講演するというものです。この講演を企画するのは、もちろん中学生徒会の生徒たちです。講演者選び、講演者との打ち合わせ、台本作成、司会進行のすべてを中学生徒会の生徒たちが行っています。2013年度は、京都精華大学のウスビ・サコ教授をお迎えして、先生の出身国であるマリ共和国についての講演をしていただきました。たくさん写真を紹介していただきながら、マリ共和国の言語、建築、食文化、学校制度など、楽しくお話していただきました。講演後の生徒たちの感想には、「ウスビ・サコ先生の講演は大変面白く、マリ共和国のことをもっと知りたいと思いました。」「マリ共和国やアフリカ諸国のイメージが変わりました。」「日本との文化の違いに驚きました。実際にマリ共和国に行ってみて、自分の目で確かめてみたいですね。」「今の自分の環境は、かなり恵まれていると思います。よい刺激を受けました。」「などがあり、たくさんこのことを感じ、考えることができた良い機会となったようです。これからも、他国の文化を知り、視野を広げることができる、このような企画を続けてほしいと思います。



講演後の集合写真

(左から中村、生徒会2名、ウスビ・サコ教授、森岡教諭、生徒会4名)



講演中の様子②



講演中の様子①